

高等部 2年生 音楽 年間計画

【1段階】

	指導内容	単元名 (仮)
A 表 現	<p>ア 歌唱の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(ア) 歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、歌唱表現を創意工夫すること。</p> <p>(イ) 次の㉗及び㉘について理解すること。 ① 声の音色や響きと発声との関わり</p> <p>(ウ) 創意工夫を生かした表現をするために必要な次の㉗から㉘までの技能を身に付けること。 ① 呼吸及び発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない、響きのあがる歌い方で歌う技能 ② 互いの歌声や副次的な旋律、伴奏を聴いて、声を合わせて歌う技能</p>	<p>(指導要領音楽 P6～)</p> <p>○生活年齢、発達の段階に応じた、日常の生活に関連した曲を取り扱う。 ○主となる歌唱教材については、各段階とも下記を1曲以上含めて、独唱、斉唱及び合唱で歌う曲 <共通教材> ・赤とんぼ ・花 ・荒城の月 ・花の街 ・早春賦 ・浜辺の歌 ・夏の思い出 ○国歌は時期に応じて適切に指導 ・君が代 ○我が国や郷土の音楽に愛着がもてるよう、共通教材のほか、長い間親しまれてきた唱歌、それぞれの地方に伝承されているわらべうたや民謡など日本のうたを含めて取り上げるようにする ○(ウ)① ・母音、子音、濁音、鼻濁音などの日本語のよさを生かした発音や語感に気を付けて歌うこと。 ・力んで声帯を締め付けることなく、音楽的には曲想に合った自然な歌い方で歌声を響かせて歌うこと。</p>
	<p>イ 器楽の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する</p> <p>(ア) 器楽表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、器楽表現を創意工夫すること。</p> <p>(イ) 次の㉗及び㉘について理解すること。 ① 多様な楽器の音色と演奏の仕方との関わり</p> <p>(ウ) 創意工夫を生かした表現をするために必要な次の㉗から㉘までの技能を身に付けること。 ① 音色や響きに気を付けて、旋律楽器及び打楽器を演奏する技能 ② 各声部の楽器の音や伴奏を聴いて、音を合わせて演奏する技能</p>	<p>(指導要領音楽 P9～)</p> <p>○(イ)① ・自分の演奏の仕方を変えることによって、その音色が変化するということを理解すること。 ○(ウ)① 音色や響きに応じた演奏の仕方を身に付けるようにすること。 ○(ウ)② 各声部の楽器の音や伴奏を聴いて演奏すること。 ○主な器楽教材は、歌唱で学習した教材や親しみのある器楽曲の旋律に、打楽器などによる簡単なリズム伴奏や平易な低声部を加えた曲などを対象とする。</p>
	<p>ウ 創作の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(ア) 創作表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、創作表現を創意工夫すること。</p> <p>(イ) 次の㉗及び㉘について、それらが生み出す面白さなどに関わらせて理解すること。 ① 音やフレーズのつなげ方や重ね方の特徴</p>	<p>(指導要領音楽 P11～)</p> <p>○音や音楽に対するイメージを膨らませたり他者のイメージに共感したりして、音楽を形づくっている要素の働かせ方などを試行錯誤しながら、表したい創作表現について考え、どのように創作表現するかについて思いや意図をもつこと。 ○(イ)①音を組み合わせるつくったリズム</p>

	(ウ) 創意工夫を生かした表現で旋律や音楽をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付けること。	ム・パターンや短い旋律を反復させたり、呼びかけ合うようにしたり、それらを変化させたりすること。 ○(ウ) ・例:「○○の音(楽器)を用いて、○○のような旋律をつくろう」
	エ 身体表現の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 身体表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、身体表現を創意工夫すること。 (イ) 次の⑦及び⑧の関わりについて理解すること。 ① 曲想と体の動きとの関わり (ウ) 創意工夫を生かした表現をするために必要な次の⑦から⑨までの技能を身に付けること。 ② 友達と動きを組み合わせる表現をする技能	(指導要領音楽 P13～) ○音楽を形づくっている要素の働かせ方などを試行錯誤しながら、表現したい身体表現について考え、どのように身体表現(イ)①[共通事項]と関わらせた指導によって、その音楽固有の雰囲気や表情、味わいなどを、生徒自身が感じ取り、感じ取ったことと体の動きとの関わりについて理解すること。
B 鑑賞	ア 鑑賞の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 鑑賞についての知識を得たり生かしたりしながら、曲や演奏のよさなどを見だし、曲全体を味わって聴くこと。 (イ) 曲想及びその変化と、音楽の構造との関わりについて理解すること。	(指導要領音楽 P14～) ○曲や演奏のよさなどについて考えをもち、曲全体を聴き深めること。 ○(ア) 曲や演奏の部分的なよさなどを見だすことに留まることなく、音楽の流れを感じながら聴くこと。 ○(イ) 例:「ゆっくり→にぎやか」について低音の楽器が単独でテンポもゆっくり演奏されていた音楽から、高音の楽器が複数同時にテンポも速く演奏される音楽になった。

【2段階】

指導内容		単元名 (仮)
A 表現	ア 歌唱の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、歌唱表現を創意工夫すること。 (イ) 次の⑦及び⑧について理解すること。 ② 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わり ※①→3年次に学習 (ウ) 創意工夫を生かした表現をするために必要な次の⑦及び⑧の技能を身に付けること。 ③ 創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能 ※①→3年次に学習	(指導要領音楽 P15～) ○生徒が思いや意図をもち、全体の響きや各声部の声などを聴きながら、他者と合わせて歌う技能を身に付けられるようにすること。 ○生活年齢、発達の段階に応じた、日常生活に関連した曲を取り扱う。
	イ 器楽の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する (ア) 器楽表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、器楽表現を創意工夫すること。 (イ) 次の⑦及び⑧について理解すること。 ③ 曲想と音楽の構造との関わり ※①→3年次に学習 (ウ) 創意工夫を生かした表現をするために必要な次の⑦及び⑧の技能を身に付けること。 ④ 創意工夫を生かした表現で演奏するために必要な奏法、身体の使い方などの技能 ※①→3年次に学習	(指導要領音楽 P17～) ○曲に対するイメージを膨らませたり他者のイメージに共感したりして、音楽を形づくっている要素の働かせ方などを試行錯誤しながら、表したい器楽表現について考え、どのように器楽表現するかについて思いや意図をもつこと。 ○(ウ)③身体の使い方:姿勢や楽器の構え方、発音する際の身体の動かし方など ○主な器楽教材は、歌唱で学習した教材や親しみのある器楽曲の旋律に、打楽器などによる簡単なリズム伴奏や平易な低声部を加えた曲などを対象とする。

	<p>ウ 創作の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(ア) 作表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、創作表現を創意工夫すること。</p>	<p>(指導要領音楽 P18～)</p> <p>○音や音楽に対する自分のイメージを膨らませたり他者のイメージに共感したりして、音楽を形づくっている要素の働かせ方などを試行錯誤しながら、表現したい創作表現について考え、どのように創作表現するかについて思いや意図をもつこと。</p> <p>○(イ)㉗</p> <p>・音の高さ:順次進行、跳躍進行。上行しているか下行しているかといったことなど。</p> <p>・音の長さ:次の音へどのような長さからつながっているかなど。</p> <p>○(ウ)自分の思いや意図を、旋律や音楽で表すために、適切に音を選んだり、組み合わせたりできること。</p>
	<p>(イ) 次の㉗及び㉘について、表したいイメージと関わらせて理解すること。</p> <p>㉗ 音のつながり方の特徴</p>	
	<p>(ウ) 創意工夫を生かした表現で旋律や音楽をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付けること。</p>	
	<p>エ 身体表現の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(ア) 身体表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、身体表現を創意工夫すること。</p>	<p>(指導要領音楽 P20～)</p> <p>○音楽を形づくっている要素の働かせ方などを試行錯誤しながら、表現したい身体表現について考え、どのように身体表現するかについて思いや意図をもつこと。</p> <p>○(イ)㉗</p> <p>その音楽固有の雰囲気や表情、味わいなどが、どのような音楽の構造によって生み出されているのかを捉えていくこと。</p> <p>○(イ)㉘</p> <p>[共通事項]と関わらせた指導によって、その音楽固有の雰囲気や表情、味わいや音楽を形づくっている要素などを感じ取り、感じ取ったことと体の動きとの関わりについて理解すること。</p> <p>○(ウ)㉘</p> <p>・㉗で示した動きを、複数で行うことにより、統一感が感じられる動きに表すこと。</p> <p>・感じたままに自由に動きながら、ふさわしいと思う表現にまとめていくこと。</p>
	<p>(イ) 次の㉗及び㉘の関わりについて理解すること。</p> <p>㉗ 曲想と音楽の構造との関わり</p> <p>※㉘→3年次に学習</p>	
	<p>(ウ) 創意工夫を生かした表現をするために必要な次の㉗から㉘までの技能を身に付けること。</p> <p>㉗ 曲の速度やリズム、曲想に合わせて表現する技能</p> <p>㉘ 設定した条件に基づいて、様々な動きを組み合わせたり、即興的に動いたりしてまとまりのある表現をする技能</p> <p>※㉘→3年次に学習</p>	
B 鑑賞	<p>ア 鑑賞の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(ア) 鑑賞についての知識を得たり生かしたりしながら、曲や演奏のよさなどについて自分なりに考え、曲全体を味わって聴くこと。</p>	<p>(指導要領音楽 P21～)</p> <p>○曲や演奏のよさなどについて自分なりの考えをもって曲全体を味わって聴くこと。</p> <p>○(ア)</p> <p>曲想及びその変化と、音楽の構造との関わりについて理解できるようにすること。</p> <p>○(イ)</p> <p>音楽の背景となる文化や歴史に目を向け、曲想と音楽の構造を理解したり、音楽の特徴を理解したりすること。</p>
	<p>(イ) 次の㉗及び㉘について理解すること。</p> <p>㉗ 曲想及びその変化と、音楽の構造との関わり</p> <p>㉘ 音楽の特徴とその背景となる文化や歴史などとの関わり</p>	

(1) 1段階と2段階の「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

共通事項

ア 音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考えること。

イ 音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる音符、休符、記号や用語について、音楽における働きと関わらせて理解すること。

○合奏や合唱などの活動を通して、和音のもつ表情を感じることができるようにすること。

○音符、休符、記号や用語の取扱い
(小学校指導要領より)

五線と加線

♯ ♭ ♮ f mf p mp V

2/4 3/4 4/4 5/8 (ブレス)

(反復記号) (反復記号)

(タイ) (スラー) (アクセント) (スタッカート) (速度記号)

(中学校指導要領より)

拍	拍子	間	序	破	急	フレーズ	音階	調	和音
動機	Andante	Moderato	Allegro	rit.	a tempo				
accel.	legato	mp	ff	dim.	D.C.	D.S.			

(フォルマータ) (テヌート) (三連符) (二分比符) (全体符) (十六分比符)